

出題分析			
試験時間	2科目で150分	配点	60点
		大問数	3題
分量（昨年比較）	[減少 同程度 増加]	難易度変化（昨年比較）	[易化 同程度 難化]
【概評】 昨年に続き第1問の大論述が20行ではなく、12行と8行の2問に分かれた。第2問が小論述、第3問が短答記述という構成は例年通り。合計字数は34行（1020字）で3行増加した。第1問は過去問のリメイクということもあって書きやすい。その反面、第2問は難易度が高く、第3問も図やグラフが用いられて多少解くのに時間を要した。このためトータルでの難易度は昨年並みとした。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	第一次世界大戦前後の帝国の解体	<p>本問は1997年の第1問のリメイクであり、オスマン帝国の部分は2019年の第1問ともテーマが重複している。過去問演習で解いていたなら参考になっただろう。昨年も過去問からのリメイクであり、今後もリメイク傾向が続く可能性がある。今回の問題も1997年のものとはかく、2019年のものを見たことがないという状態での受験は避けたい。</p> <p>(1)は、後継国家が多民族国家ではなくなったオーストリア＝ハンガリー帝国とオスマン帝国、多民族国家の再生を図ったロシア帝国と清の2つの類型に分けられることに気付けば難しくない。知識があると細部をどれだけでも解答に盛り込める問いになっているので、構成に注意してバランス良く文章をまとめたい。</p> <p>(2)も、ヨーロッパでは民族自決が適用され、西アジアでは適用されなかったことを軸に論述すればよい。(1)とは逆に字数が余りがちになると思われるが、「適用をめぐる事情について論じた上で」という要求に着目して肉付けできたかがポイントである。</p>	やや易

設問別講評			
2	各時代・地域の外交	<p>(1)は(a)～(c)全て容易。(c)は玄奘で解答例を作成したが、義浄で作ってもよいだろう。</p> <p>(2)は難しい。(a)はエチオピア侵略を契機にイタリアが国際的に孤立してドイツに接近したことを書けばよいが、1935年以前のイタリアがドイツと協調関係になかったという知識が無いと書きにくい。解答例には入れていないが、スペイン内戦や日独伊三国防共協定に言及してもよい。(b)は当時のイタリアがローマ帝国の再興を図り、その栄光を借りて国威発揚を図ったことを読み取って解答を作成する。受験生間の差がつく問題となったと思われる。</p> <p>(3)は現代史対策がとれていたかが問われた。キューバ革命からキューバ危機までの経緯は複雑であるが、4行で書ける範囲で簡潔にまとめてよい。</p>	やや難
3	世界史上の都市の機能	<p>(1)は東大では珍しい記号選択問題。(3)の「詞」はやや盲点か。(4)は「キュロス2世」等のケアレミスを避けたい問題。(7)のラビンはやや難。「この順序で記せ」という指示にも注意しよう。(8)・(9)はグラフからの出題だが容易。</p>	標準

合格のための学習法

第1問については、まず問題文をよく読むこと。解答上の手がかりは多く含まれているので、長大な問題文でもじっくりと読み込む必要がある。小問の直接的な指示以外にも注意を払い、解答につながる要素を拾えるようにしよう。次に、事項の取舍選択や文章構成の練習が重要である。問題全体のテーマに沿って必要な事項を想起し、論理構造のしっかりした文章を書くのは、言うまでもなく非常に難しい作業である。過去問を解いたら多くの添削指導を受けて、徐々にやり方を身につけていくとよいだろう。

第2問も意外とあなどれない。問題文の細部に気を払わないと、真に要求している事項が見えてこないという点は第1問と同じであるし、短い文章でまとめるのが難しい内容を要求してくる。

第3問は易しいが、それだけに落とせない。共通テストや私大の学習にもなるので、早いうちに完成度を高め、過去問や模試で9割を確保できるようにしておきたい。